

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、定時に当日の勤務職員で『なごみ基本理念』を唱えて、理念に基づいて毎日、新たな気持ちで入居者の方に関わりが出来るよう実践につなげている。	毎朝、職員全員で理念を唱え、新人はベテランの職員の入居者に対する関わり方などを見習い、笑顔を決やさないケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出かけたとき、近隣の人達や登下校の子供たちと挨拶を交わしたり、近所の美容院へ行くことを楽しみにしておられ、そんなときに見られる入居者の方の穏やかな表情をされるのが地域の中で共に生きていくと実感できると考えています。	天気の良い日は日常的に職員は入居者と散歩に出かけ、道で出会う人と挨拶を交わしている。小学生の訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理者を含めスタッフは努めて地域で行われる認知症対策研修会、感染症予防対策研修会などに参加している。又、行方不明者捜索依頼などの知らせがはいるようにしており、地域に役立てるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	4/29運営推進会議を開催しました。地域の方たちに多数の参加いただき、とてもありがたく思っています。この機会にお話でき、貴重なご意見も頂いたので、今後のケアサービスに活かしていきたいと思えます。	地域包括支援センター担当者や民生委員や家族も参加して、2か月に一度、運営推進会議が開催されている。地域の人の意見を運営の参考にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日ごろから、市町村担当者とは、研修会や電話連絡などでお世話になっています。また、運営推進会議にも参加していただき、入居者の暮らしぶりやニーズを伝えたり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えていきます。	市町村管理者会議に参加して、事業所の取り組みや実情を伝え、経済的理由で施設をかわる利用者のことなど日頃の悩みごとを話し合っている。	健康福祉課の職員との話し合い等、行政との連携をさらに緊密化してほしい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	日中は玄関の鍵を掛けずに開放しています。自力で動ける人(車椅子自力駆動、杖歩行、など)は無理な抑制は、行わず、スタッフはいつも見守りができる場所に居るようにして必要に応じて介助しています。その際はさりげなく声かけをして、原因をさぐり、希望をなるべくかなえて不安を取り除く取り組みをしています。	日中は玄関の鍵はかけず、職員はいつも入居者を見守り、言葉をかけるよう心がけている。夜は7～8時頃、防犯と入居者の安全のために施錠している。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	入居者の方が徘徊が始まったり、不穏状態になったりすると介護する側もストレスや疲労感が増し、ケアに影響がないようお互いのケアを見つめ、申し送りの機会に話し合っています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やスタッフは研修で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んできています。必要な場合それらを活用できるようにしています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をとって丁寧に行い、利用料金やおこりうるリスク、重度化や看取りに付いての対応方針、医療連携体などについても詳しく説明し同意を得るようにしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、訪問時に入居者のホームでの様子をお話したり、なんでも言ってもらえるようスタッフ全員、雰囲気作りをしている。	家族の訪問時、職員が入居者の様子などを話している。家族が職員に何でも話せる信頼関係ができています。家族と話し合ったことや連絡ノートに書いてもらった意見を運営に反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は、スタッフの要望・意見を聞くよう心がけているが、不満や苦情を把握しきれない可能性もあるので、日頃から、コミュニケーションを図るように努め、スタッフの気づきやアイデアを運営に取り入れたりしている。	月一回の医療法人全体のリーダー会議や週一回の職員会議は、職員同士がお互い何でも言い合える雰囲気の中で、十分な意見交換ができてきているようである。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来て様子をみたり、毎月行われるリーダー会議から現場の就業環境の把握をしており、スタッフ各自のやりがいなど向上心をもって働けるよう、職員の資格取得に向けた支援や、健康管理を行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	宇根本会全体のレベルアップのため、地域に貢献するために宇根本会で研修会、勉強会を毎月1回開催して、スタッフに可能な限り参加してもらっています。外部の研修にも積極的に参加してもらい、研修内容を毎週1回行われるカンファレンスのとき、発表してもらい、研修報告書を閲覧できるようにしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者やスタッフが管理者交流会など連絡会を通じた学習会に参加して情報交換や親睦が図れるよう支援しています。管理者やスタッフは地域の交流会に参加してサービスの質の向上に役立っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの入所希望があり、ご家族や今まで関わりのあるケアマネジャーからアセスメントで生活状況を掴み、事前面談に入るという段階を踏むことが多い。ご本人の思いや不安を受け止め、安心していただけるように話しかけ、心身状態や苦しんでいること、悩んでいることをしっかり受け止め、入居者に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、落ち着いてゆっくり思いを話していただき、事業所としてできるだけ応えようとしている姿勢を表して、これまでのご家族の苦労やご家族の求めているものをよく理解して事業所としての対応が入居者に、ご家族にとって納得できるものか具体的に説明しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思い、お困りになっていることなどに耳を傾けて、対応出来る事、出来ない事などよく話し合い、信頼関係を築き、出来ないことでもほかに方法はないか、ケアマネジャーや他の事業所のサービスにつなげるなど可能な限り柔軟に対応して改善に向けた支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「なごみの基本理念」に掲げるように入居者は人生先輩である。教えてもらう関係であり、共に支えあう関係でもあり、一方的な縦の関係ではない。普段から入居者に教えてもらう場面が多い。そういう場面が多くもてるようにセッティングや工夫や声かけに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは本人を支えるパートナーとして、本人の希望や日頃の様子など訪問時に伝えて、本人と共に支えていくよう協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望されたら、ご家族に相談して馴染みの美容院へ出かけたり、お正月の外泊、お墓参り等も実現出来るようにしている。又、これまでのそれぞれの生活習慣を尊重し、友人、知人、親戚の方などの訪問もあるので続けて交流持てるよう支援している。	誕生日・墓参りに伴う家族や友人・知人の訪問、行きつけの美容院の利用などなじみの関係が継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性にも配慮し、テーブルの配置を考えたり、トラブルになりそうな時はスタッフが間に入り、話を良く聴いたりし、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了されたご家族が時々、お花を届けてくださったり、散歩途中にあつたら、声を掛けてくださったり、有り難く思っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。思いが通じなく不穏状態になる方もおられるのでじっくり耳を傾けて出来るだけ希望に添えるよう支援している。	職員は、入居者一人ひとりの様子を細かく観察し、家族からの情報を参考にして、入居者の気持ちを受け入れるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人を知ることがより良いケアに繋がるので本人を始め、ご家族から本人のバックグラウンドに関する情報を得てそれを、スタッフ間で共有し、入居者との関係作りに役立たせてもらっている。プライバシーに配慮しながら情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの一日の生活リズムを観察すると共に、行動や小さな動作から感じ取りスタッフ全員で確認し、日勤帯、夜勤帯で記録して、朝9:00と夕5:00に申し送りをしている。又、スタッフ間の情報の共有として大事なことは連絡帳に記入して随時見るようにしており、読んだらサインをするようにしている。また、医師の往診時には入居者の容態を報告し指示を仰ぐようにしている。午後6:00と午後9:00には入居者の様子を理事長に定時報告している。急変時には、医師、看護師と24時間連携できる体制である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、入居者の状態や希望、ご家族の意向に沿った現状に即した個別の介護計画を立て、アセスメントを含めスタッフ全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	三ヶ月に一度のモニタリングでは日頃気づいたことを職員全員で話し合い、対応の仕方など問題点を検討し、介護計画の作成に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者全員の一日の様子が一覧できる記録用紙に排泄時間の記録をつけ、失禁状態にならないように支援している。食事・排泄・服薬・入浴・バイタルなど身体状況を含め、家族の面会などを記録しすべてスタッフが見て確認ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じて、急な外出、外泊要望を軸に臨機応変に対応している。入居者の状態やご家族の意向に配慮しながら、ご家族の方への食事の提供などしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域生活を継続していくためにボランティアや民生員の存在を把握し協力をしている。運営推進会議に地域の役員の方が参加してくださりより密接な繋がりができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療をうけられるよう、ご家族の依頼により通院介助を行ったり、ご家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうなど複数の医療機関と関係を密に結んでいる。医師の往診時には入居者の容態を報告し指示を仰ぐようにしている。午後6:00と午後9:00には入居者の様子を医師に定期的報告している。急変時には24時間対応できるようにしている。	入居者の様子をかかりつけ医に毎日定時に報告し、医師の訪問診療や看護師の常駐など医療機関との連携を密にして、適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。看護職員がいない時間は介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。体調や些細な表情の変化をも見逃さないよう、早期発見に取り組み、変化に気づいたことがあれば、ただちに看護職員に報告して適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して治療できるように、又早期に退院できるように、なるべく混乱が少ないように本人の普段の状況や特徴などを介護添書、診療情報提供書などを添え、入院先の医師とご家族と共に協力しながらスムーズに退院できるよう支援に努めている。入院中にはスタッフが毎日見舞うようにし、洗濯物などごに代わって持ち帰って洗ったものを届けるよう支援している。ご家族とも回復状況など情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の容態悪化時には早期に医療機関とご家族との話し合いができるように連携し、予後について入居者、ご家族に理解をして頂き、終末期に向けての方針など入居者、ご家族にとってどうあったらよいのか段階的な合意や対応を関係者全体で共有し安心して最期を迎えられるように随時意志を確認しながら取り組んでいる。	終末期の支援について、家族・入居者と話し合いを重ね、穏やかな最期を迎えられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	けがや骨折、発作、喉の詰まり、意識不明などの対処方法について学習して実際の場面に活かせるようにしている。夜勤時の緊急時対応方法についてもマニュアルを整備し、周知徹底している。消防署の協力をえて、緊急手当で、蘇生術の研修を実施し、すべての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	三宅消防器店や消防署の協力を得て、火災発見時の対応や避難訓練(実践)などを定期的に行ったり、スプリンクラーの整備や、消火器の点検や使い方講習、避難路の確保など日ごろから行っている。運営推進会議などを通じ、地域の協力体制が得られるよう呼びかけている。地震時を想定した避難誘導についても消防署に来て頂いて講習会を開くなどしている。	災害時、職員には冷静に対応するよう徹底を図っている。傷病者は救急車にて搬送することにしている。喫煙習慣のある入居者が一人で勝手に喫煙しないよう、職員がタバコライターを預かって対応し、火災の予防に努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払い、援助が必要なときもまず、本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉掛けをするよう努めている。	職員は入居者一人ひとりの様子を細かく観察し、個性を大切にし、丁寧に言葉をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者にあわせて声掛けをし、些細なことでも本人が決める場面を作っている。(飲みたいもの、食べたいメニュー、する、しないなど)難聴のかたには、耳元でゆっくり大きな声で伝えたり、筆談を利用している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながら入居者のペースでその日、そのときが過ごせるようできるだけ個別性のある支援を行っている。しかし、入浴、行事などはスタッフの都合で決めていることも少なくない。行きたいところへ外出(自宅、買い物、散髪など)したり、本人のサインを読み取り、休憩場面をつくるなど個別対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に本人の意向で決めており、スタッフは、見守りや支援が必要ときに手伝うようにしている。自己決定ができていない入居者の洋服選びなどはスタッフが決めてしまいがちな面も少なくないが声掛けをしながら本人の気持ちを読み取りながら支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューや食べやすい形状など食欲がわく盛り付けなど工夫おいしいものを楽しみ、入居者のペースで食べる環境を提供し、スタッフも入居者と同じテーブルを囲み食べている。時にバイキング方式で自分の食べたいものをえらんで食べてもらうこともあります。野菜の収穫期には、畑に行き、採ってきた野菜をメニューに添え、話題にして楽しい会話にもなっている。	旬の食材を用いて、美味しくたべてもらいたいという職員の思いが察せられる。入居者が下ごしらえを手伝っている。食事は嚥下困難の入居者にはうどんを短くカットしたり、本人のペースに合わせて、職員が最後まで付き添っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の食事摂取量を把握している。全員の水分摂取量にも注意して少ないときには補助食品や嗜好品で補ってもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けや見守りをし、出来ない方には、出来ないところを支援するなど一人ひとりの状態にあわせてやりかたで口腔内の清潔に配慮している。義歯の手入れ、管理がきちんとできるよう支援している。歯のない入居者にはうがいやハミングットを使用して、口腔内のマッサージや汚れの除去をしている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながらさりげなくトイレの声掛けを行ったり、入居者の様子を敏感に察知し身体機能に応じた支援をして、気持ちよくトイレでの排泄が出来るようにしている。排泄チェック表を利用し、尿意のない入居者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。パンツやパット類も入居者にあわせて検討している。	職員は入居者のパターンを把握して、言葉をかけ、介護の必要を確認している。また、排泄回数をチェックしたり、便の状態を記録している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には、牛乳、ヨーグルトなどで十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供している。又、腸の働きをよくするために毎日レクリエーションのとき体操したり、散歩に誘って楽しく身体を動かす機会を作っている。下剤や便を軟らかくする薬を用意している場合は入居者の排便を促し、状態に合わせた服薬にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が一方的に決めずに、入居者のその日の体 調や希望を確認し、入っていたいです。入浴 が負担になる場合はシャワー浴にしたり、清拭対 応にしたり、足浴をとりにしたりしている。入浴を 拒む入居者には時間をずらしたり、声かけを工夫 するなどして、一人ひとりにあわせた支援をして いる。	一日おきの入浴を基本とし、入浴の仕方や 声のかけ方など、入居者一人ひとりに合わ せた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整える よう努めている。その方の生活のペースで昼寝し たり、寝付けなときには、暖かい飲み物を飲み ながら、話相手となる等配慮している。眠剤を飲 まれている入居者が居られますが睡眠状況を把 握し、日中の活動の妨げになっていないか確認 している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	処方箋を薬配ケースに貼り、スタッフ全員がわかる ようにしている。処方に変更があった場合には連 絡帳に記載し入居者の状態変化に努めている。 服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬できている か確認している。自力で服薬できにくい入居者 にはスタッフが服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションのとき曲に合わせて手踊りしてくれ たり、好きな歌を唄ってくれたりその場を盛り上げ て下さるなどや、洗濯物たたみ、おしぼりたたみ、 クロスパズルなど得意分野で一人一人の力が発 揮してもらえるように支援しています。		
49		○日常的外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か けられるよう支援に努めている。又、普段はいけ ない場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かけられるように支援し ている。	家族の意向で正月に外泊したり、墓参りや食事 に行かれる事もあるので続けられるようお願いし ている。スタッフが天気の良い日や体調に合わせて 散歩に誘ったり、ドライブ、買い物に出かけて気 分転換を図っている。	入居者の体調を考慮して車で外出したり、職 員の業務量と人数などそのときの状況を見 て、できるだけ散歩や買い物に入居者を誘 い、外出してもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て小額のお金を持っている人 もおり、買い物や美容院へ行った時には、財布か ら出して支払いをしています。又、ご家族よりお 金を預かり事業所で管理している人でも外出時 買い物をし、ほしい物を買うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に電話してほしいと希望されたときにはやり取りができるよう支援している。毎年、年賀状を出すために支援をおこなっているが書きにくい入居者には、手を添えて書いてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの飾りなどは、スタッフと入居者が一緒に作成したものや季節感のあるペーパーフラワーが本物に負けないくらい色鮮やかに見え、写真なども行事ごとに張替えて、落ち着いた居心地の良い空間作りを工夫しています。窓から自然の光が差し込み小鳥の姿が見られ、美しいさえずりも聞かれます。	職員と入居者が話し合ってリビングの壁をちぎり絵で飾ったり、卓上に生花が置かれ、清潔で居心地のよい共用空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングも広いスペースを確保しており、ソファやダイニングテーブルなどを設置して落ち着いてくつろげるスペースになっている。玄関ホールには、絵画や花を飾り、靴の履き替えや腰を掛けて休めるように腰掛がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者一人一人個室になっており、出窓には鉢植えの花や観葉植物を置いてあり、又、使い慣れた家具やテレビを持ち込みで配置されている入居者もいる。壁にはカレンダーや手作りの壁掛けが掛けてあり、疲れたときに居室に入りゆっくり休めるようになっている。庭に出ると季節の花が見られるよう花壇の手入れをしている。ベンチを設置して、仲良しの入居者同士話したり、時には、皆と庭に出て外気浴をしたり、歌を唄って楽しめるようにしている。	入居者一人ひとりの思いを大切に、思い出の品や趣味の材料を持ち込んで快適に過ごしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が自分の部屋を確認できるよう、入り口に表札を書かけ、目じるしになるようにしている。又、入居者の身体状況にあわせて手すりの増設、玄関のスロープ化を実施している。一人一人のわかる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮している。		